

献呈の辞

赤瀬知子教授は令和二年三月をもって定年退休を迎えられます。

先生は昭和六十二年に本学短期大学部国文科助手として着任以来、三十三年の長きにわたり研究と教育に邁進されました。ご専門は歌学書の研究であり、平成十八年には主著『院政期以後の歌学書と歌枕』を上梓しておられます。著述にあらわれる慎重かつ着実な研究態度と、必要なことのみ的確にお話になる慎ましやかで優雅な所作は、われわれ後輩の教員を風化し、学会の支柱となつてこられました。また深い学識とお人柄によつて、多くの学生と大学院生を指導し育ててこられました。その多大なるご恩に報いささかの謝意を表すべく、この一冊を呈する次第です。文藝學會構成員諸氏により、ここに珠玉の論説が集められることとなりました。すべて先生の学徳の致すところと存じます。

最後に、先生のますますのご健勝とご活躍をお祈り申しあげます。

なお、本書の出版には、大谷大学の助成をいただきました。記して感謝申しあげます。

令和二年一月

大谷大學文藝學會

乾 源 俊